

Athlete Voice 入賞者の声

▶ 質問内容

- Q1. 国スポ(障スポ)での結果を振り返り、今のお気持ちを聞かせてください。
- Q2. 今大会に向けて、日々の練習や生活で特に重要視してきたことを教えてください。(技術、体力、メンタル、ゲン担ぎ、ルーティーン、チームでの決め事など何でも可)
- Q3. 今大会の競技(試合)で一番良かった点、逆に悔しかった点を教えてください。また、滋賀の地で印象に残ったことを教えてください。
- Q4. 憧れや目標にしている選手や人物、チームがあれば、理由も合わせて教えてください。
- Q5. 今後のチームや自身の目標を教えてください。
- Q6. 未来ある岩手県の子どもたちへ伝えたいことがあればお書きください。
- Q7. 何でもご自由にお書きください

た き も と か ん た 滝本寛汰 選手

ホッケー競技 少年男子

A1. 中学生の時と同じメンバーで、再度優勝することができて嬉しかったです。すべての試合が決勝戦レベルで、すごくハードな試合が続きましたが、チームで励まし合うことで最後まで走りきることができました。

A2. 練習では、時にSO(シュートアウト戦)とPC(ペナルティーコーナー)のセットプレーを中心に力を入れてきました。試合前のウォーミングアップから、メンバー3名を中心に声出しをしています。また、伝統の「しこふみ声出し」で緊張をなくしています。

A3. 今大会で一番良かった点は、初戦でインターハイ優勝校にリベンジを果たすことができたことです。逆に悔しかった点は、失点することが多く焦りに繋がったことです。また滋賀の地で印象に残っていることは、メンバー全員で片道4kmの琵琶湖までランニングしたことです。

A4. 憧れのチームは、岐阜県の社会人チームの岐阜朝日クラブです。理由は、コーチの小沢諒さんが所属していて、チーム力の良さと攻撃パターンがたくさんあり、MFにボールが入ってもボールロストすることはなく、安定しているからです。また、PCでの得点力が高く、全国でも上位だからです。

A5. 今後は12月に開催される全国高等学校選抜ホッケー大会での優勝を目指しています。インターハイは準優勝だったので、今度こそ沼宮内高校単独で優勝できるように頑張っていきたいです。また、大学でもホッケーを続けるので、高校では選ばれなかった世代間日本代表に選出されるように頑張りたいです。

A6. 岩手はホッケーが強く、環境も良いので楽しむことを忘れずにやってほしいと思います。また、全国大会で勝つためには、走りきる力やフィジカルが必要とされるのでトレーニングを頑張っていきたいです。



わ た な べ り ょ う 渡邊 峻 選手

卓球競技 少年男子

A1. 決勝に進出しましたが優勝出来ず、悔しい思いもありますが、卓球競技において岩手県卓球史上初の成績を残す事ができたことに対しての嬉しい気持ちの方が大きいです。

A2. コーチ陣に言われていた一球目のサーブにおいて回転やコース取りの配分については三人とも意識してやっていた。三年生がチーム戦を戦うのは最後だったので今まで応援して下さった方々に感謝を忘れずに一戦一戦戦うことを皆で決めていました。

A3. 試合に出場する選手がトレーナーさんの力も借りてしっかりと準備し、ベンチが伸び伸びとプレーできる雰囲気づくりができたことが良かったです。悔しかったのは優勝できなかったことが一番です。

滋賀の地で感じたことは琵琶湖が想像以上に大きかったことです。

A4. 卓球の中国チームです。個人戦では負けることもあります、団体戦には国を上げて挑み、いつの世代でも世界一を取り続けている所です。

A5. 専修大学北上高等学校の目標はインターハイで団体戦ベスト4を目指しています。これまでの最高成績はベスト8なので先輩たちの壁を超える事を目標にしています。個人としては中央大学に進学して競技を続けていくので、学生日本チャンピオンを目指し、岩手県に恩返しできるようにしたいです。

A6. 今回銀メダルを獲得した3人とも小・中学の時には全国大会でメダルはもちろん、ランキングにも入ったことがありませんでした。しかし、コツコツと小・中学生時代にも努力は積み重ねておりました。高校に進学しても努力を継続した結果、今回のように全国の表彰台に立つことができました。ただ、その努力は自分一人では出来たことではなく、監督・コーチ・家族のおかげであることを忘れてはならないと思います。

A7. 岩手県の皆様、応援ありがとうございました。



よし だしゅん ご 吉田俊吾 選手

カヌー競技
成年男子 カナディアンシングル500m
成年男子 カナディアンシングル200m

- A1. 望んでいた結果ではなかったが、どちらも3位になることができ少しでも岩手県に貢献できたのは良かったと思っています。
- A2. 国体はレース数が少ないため、一本で自分の全力を出し切れるよう練習から試合を意識して行いました。
- A3. 200mの決勝は練習であれば中止するほど風が強かったがなんとか自分の漕ぎができたことが良かったです。
- 500m決勝で前半冷静になりすぎて攻めたレースができなかったのが悔しい点です。
- A4. 種目は違いますがメジャーリーガーの菊池雄星選手を尊敬しています。探究心が強く、さらにKOHという施設を作って子供たちの未来のために活動していることが素直にすごいなと感じています。

- A5. 来年のアジア選手権でメダル獲得することです。
- A6. 私は、中学まで野球をやっていた経験もあり、野球のスイングのように漕ぐであったり、棒高跳びのイメージで（やったことないですが笑）パドルをしなせる感じといった他の競技や動作から連想させて日々考えながら練習しています。今ではYouTubeやInstagram等でたくさんの人が情報発信しているため、自分の競技でトップクラスの人はもちろん他競技で活躍している選手の練習や考え方から学ぶことがたくさんあると思います。
- A7. もっともっと活躍できるよう頑張ります。



たかはし た く 高橋汰紅 選手

陸上競技
少年男子A 5000m競歩

- A1. インターハイでは4位という結果で、国スポでは絶対にメダルを取るという気持ちでレースに挑みました。無事に達成できて、とても嬉しいです。
- A2. 日々の練習では、朝練では走って、放課後は競歩の練習をするなど、バランスよく長い距離を踏むことを心掛けていました。生活面では食生活に気を使ったりなどいろいろ工夫をしてきました。
- A3. ・一番良かった点は、レース展開を冷静に判断して、最後まで粘り切って3位でゴールできたことです。
- ・悔しかった点は2位と6秒離されてしまったことです。もう少し持

- 久力がついていれば結果が変わっていたと思います。
- ・レース中にトラックから彦根城が見えたのが印象的でした。
- A4. 元日本代表で競歩で活躍した高橋英輝先生（現 久慈高校教員）が憧れです。男子10000m競歩の世界記録を出したレースにとっても心惹かれました。
- A5. 今後は大学へ進学し競技を継続する予定です。大学でもいい活躍ができるように、冬季練習に励みます。まずは、全日本インカレでいい結果を残せるように頑張ります。
- A6. 自分に厳しく練習に励めば、必ずいい結果が得られると思うので頑張ってください。
- A7. 先日(11/8)に5000mWの日本高校記録が、同学年の兵庫の選手によって塗り替えられました。自分も彼に負けずに頑張っていきたいと思っています。

なか や こと こ 中屋琴子 選手

ハンドボール競技 少年女子

- A1. 今回の国スポでは、初戦を勝利し2018年福井国体以来の5位入賞できたことはとても嬉しく思っています。しかし、準々決勝で敗れてしまったのはとても悔しかったです。
- A2. チームメイトとのコミュニケーションを大事にしました。選抜チームなので、より完成度の高いコンビネーションにしておくために、選手同士のコミュニケーションをたくさんとることを心がけていました。
- A3. 初戦はシュートのミスが多かったのですが、自分たちのリズムで試合を進めることができました。しかし、強豪チームとの対戦となると、少しのミスで流れが大きく変わることもありました。準々決勝

の香川県戦では、終盤に1点差まで追いついたのですが、ミスで再び離れてしまいました。とても悔しかったです。印象に残ったことは、地元の小学生たちが元気よく声を合わせて『いわてー!!』と応援してくれたことです。たくさんのパワーをもらいました。



- A4. 熊本ビューストピンディーズの谷藤悠選手です。不來方高校の出身で、高校時代ユース日本代表にも選出されていました。素早いフェイントや力強いシュートにあこがれています。
- A5. 大学でも競技を続けるので、さらに技術を向上させて全国で活躍できる選手になりたいと思います。
- A6. 一生懸命トレーニングをして、たくさんの経験を積んで、全国で羽ばたいてください！



ち ば あ か ね 千葉朱夏 選手

フェンシング競技 成年女子

- A1. 3人のチームワークが発揮できたと実感した良い試合だったと思います。
- A2. 私は社会人ということもあり、学生に比べて練習する時間の確保が難しい中、練習がある際は、試合形式の練習を中心に行っていました。また、チームメイトが普段から一緒に練習しているわけではないので、試合前日などに翌日対戦する相手の攻略方法や誰をどの選手に当てるかなどチーム内でよく話し合うことを心がけました。
- A3. どのチームよりもベンチを盛り上げ、チーム全体の雰囲気をよくできたことだと思います。チームの雰囲気づくりは団体戦をする上で、個々の技術と同じくらい重要だと考えるからです。悔しかった点

- としては、あと1試合勝てばチーム勝利できたところを勝ちきれなかったことです。滋賀とはあまり関係ありませんが、岩手県成年男女で入賞できたこと、東北予選を通過した成年女子の東北3県が全て入賞したことがとても良い思い出です。
- A4. オリンピックに出場した大学の先輩方には憧れます。選手として試合で結果を出すだけでなく、フェンシングを広めるための活動やサポートも積極的に行っており、選手としてだけでなく、人としても尊敬できることがあると感じるからです。
- A5. チームメイトは毎年変わりますが、毎年安定して入賞できるチームづくりに貢献できたらと思います。
- A6. 結果につなげるためには、沢山の経験が必要だと思うので、些細なことでも挑戦し、失敗しても諦めずに最後まで頑張ってください！
- A7. 日頃よりサポートしてくださっている関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。今後も、様々な形で岩手県に貢献していきたいと思っています！